

事業計画概要及び選定理由

別紙

施設名	指定管理者候補者名	事業計画概要	選定理由（選定委員会議事要旨）
練馬障害者支援ホーム	（福）東京援護協会	○ 利用者の人格と自己決定を尊重し、一人ひとりに最もふさわしいサービスを提供して自立を支援していくことを基本理念とし、これまで以上に地域に根ざした施設運営を展開する。 ○ 利用者の人格を尊重し、自立性と自己決定を基本とした支援を展開する。 ○ 運営規程により、提供するサービス水準の基本を明示するとともに、各種マニュアル等を定め、サービス水準の確保に努める。	○ 法人の実績を活かし、地域と連携して確実な支援を展開している。 ○ 利用者の自立性と自己決定を基本とした個別支援計画に基づき、個々の利用者の状況や意思に応じた支援を行っている。 ○ 人事考課面談を活用し、職場の問題点や課題等について、意見を幅広く収集し、施設長を中心に問題解決や改善に取り組んでいる。
江東通勤寮	（福）東京都知的障害者育成会	○ 法人のスケールメリットと多様な福祉事業を展開してきた運営実績を活かし、一般就労している利用者と地域移行した利用者に対して、就労定着支援と自立生活支援を展開する。 ○ 利用者が地域において継続的に安定した生活が送れるよう、アフターケアを実施し、充実した支援体制を構築する。 ○ 利用者が他者のアドバイスに耳を傾けながら自己選択・自己決定ができるよう、また適切な判断と表現ができるよう、利用者の意思や思いを場面ごとに細やかに確認しながら支援を行う。	○ 城東地区の障害者就労支援センター等関係機関との連携を深め、在寮生だけでなく、地域移行した利用者も含めて、社会的自立に向けた支援を計画しており、サービスの向上が期待できる。 ○ 寮長が地元町会役員へ就任したり、利用者・職員が町会の防災訓練に参加する等、地域との連携を重視し、地域に根付いた着実な支援を展開している。 ○ 児童養護施設からの利用者等、多様な課題を持つ利用者に対し、確実な支援を提供している。
大田通勤寮		○ 法人のスケールメリットと多様な福祉事業を展開してきた運営実績を活かし、一般就労している利用者と地域移行した利用者に対して、就労定着支援と自立生活支援を展開する。 ○ 利用者の地域移行を実現するため、関係機関との連携を図り、退寮後の利用者へのアフターケアを充実させ、安心して地域で生活できるよう支援を行う。 ○ 利用者が日々の状況を振り返ることができるよう、「ステップアップシート」等を活用し、社会的自立に向けた生活支援を実施する。	○ 各利用者の状況把握を行いながら、目標を段階的に設定した「ステップアップシステム」を活用した計画を立てており、サービスの向上が期待できる。 ○ 近隣に雇用場が多いことを活用しながら、就労支援ネットワークと連携し、就労支援機能の強化を図っている。 ○ 対人関係の支援が特に必要な利用者等、多様な利用者への支援に取り組んでいる。
豊島通勤寮		○ 法人のスケールメリットと多様な福祉事業を展開してきた運営実績を活かし、一般就労している利用者と地域移行した利用者に対して、就労定着支援と自立生活支援を展開する。 ○ 通勤寮の24時間の支援機能を活用して、就労している利用者の拠点支援事業所を目指す。 ○ 利用者の障害特性を踏まえ、コミュニケーションの方法について工夫しながら支援を行う。	○ 就労・定着支援と自立生活支援を一体的に行い、施設全体で有期限・有目的・地域移行に重点を置いた支援が期待できる。 ○ 地元町会や地域の関係機関との連携も積極的に行っている。 ○ アフターケア等を含めて着実な支援を行う等、退寮後も地域生活が継続できるよう積極的な支援を展開している。
立川通勤寮		○ 法人のスケールメリットと多様な福祉事業を展開してきた運営実績を活かし、一般就労している利用者と地域移行した利用者に対して、就労定着支援と自立生活支援を展開する。 ○ 職員の人材育成・資質の向上に努めるとともに、生活支援ワーカー等を活かした、地域生活を支えるセーフティネットとしての機能を強化する。 ○ クラブ活動・町会の防災訓練等を通して、利用者・職員が地域社会との交流を図り、地域と密着した支援を提供する。	○ 地域の関係機関との連携・協力体制を持続し、情報交換・共有を図り、地域の障害者の生活を支えるネットワークの一員として機能することが期待できる。 ○ 多摩地区の障害者就労支援センター等関係機関との連携を深め、情報共有し、地域移行した利用者への支援に当たっている。 ○ 保護者会等を通じて、利用者・保護者との要望把握に努めている。
葛飾通勤寮	（福）原町成年寮	○ グループホーム・ケアホームのバックアップ施設としての役割を担いながら、生活支援センターとして、地域で生活する知的障害者を支援する。 ○ 法人内事業所での利用者情報の共有化と日常的な連携を図ることにより、利用者がより安定した地域生活を送れるよう支援を行う。 ○ トレーニングとリハビリテーションを通勤寮支援の柱とし、就労定着、社会的自立、経済的自立、社会性・協調性の獲得を目標とした支援に取り組む。	○ 利用者への一般就労と社会生活能力向上、法人内他事業所との連携による豊かな人生を送ることへの支援、地域社会への貢献という3点を掲げた事業展開が期待できる。 ○ 同法人が運営するグループホーム等とも連携しながら退寮者のアフターケアを実施している。 ○ 法人としてカウンセラーを配置し、利用者の個別の状況に応じた支援に取り組んでいる。
町田通勤寮	（福）つるかわ学園	○ 運営理念・方針に基づき、「通勤寮」を地域移行を促進する拠点事業所として利用者への充実した支援を展開する。 ○ 支援員だけでなく、事務や調理員等の職員も、個々の利用者の状況について共通した理解のもとで支援ができるよう留意する。 ○ 利用者の態度や表情に対して、きめ細かい観察を行い、利用者の意向に沿った支援を行う。	○ 一人ひとりの利用者の意思や心身の状況を把握し、施設のサービス向上に反映させることが期待できる。 ○ ケース会議に支援者全員が参加し、福祉司とも積極的な連携を図る等、施設全体で利用者の課題改善に努めている。 ○ グループホームに移った利用者に対して、その次の段階への移行を目標にした支援を行っている。